

武録之序

武録ト云朝鮮國ヨリ我朝ニ渡將軍吉宗公奉之用ニ至亡今武門ノ
既トシテ世ニ弘給唐韓退之武録ノ詩曰○汗泗交流郡城角○築場千
步平如削○短垣三面繚遠迤○擊鼓騰騰樹赤旗○分曹決勝約前定○
百馬橫蹄近相應○球欲駕杖奮合且離○紅牛纓紋黃金羈○側身轉臂著馬
腹○霹靂應牛神珠馳○發難得巧意氣庶○數聲四合壯士呼○此誠習戰
兆為劇○豈若安坐行良圖△誠計策ヲ勵勇猛ヲ奮勝負之逢未シ乎
前後ニ馳違全戰場之亂勸ニ似リ尤初心武士馬ニ劔戟ヲ扱使トシテ其功莫大也
依テ法令ヲ定勝負之論ヲ明治世之弄トス弩々鹿畧ニ不可存者也

于時寶曆七年五月七日

何れも法場の如し

一 場訓の百敷に九門内高半馬敷よりて廣く九門を越え九間
中球と球の百敷に九門内高半馬敷よりて廣く九門を越え九間
中球と球の百敷に九門内高半馬敷よりて廣く九門を越え九間
中球と球の百敷に九門内高半馬敷よりて廣く九門を越え九間

打球役者之事

一 球奉行、奥に此首尻とく、法令を記首尻と量りて諸式の違束
配、進退の相違、或る人の没之、但前後の支度、用ゑ其見くるに、
相違の拍子、二、打之、宗孫の者、球杖の上より、深も、小橋を、
あるに、其處の拍子、二、三、四、五、六、七、八、九、十、
球目付、勝負の、い、う、う、う、う、う、う、う、う、う、う、
球目付、勝負の、い、う、う、う、う、う、う、う、う、う、う、

入地、以、て、之、を、勝負、取、定、ま、す、之、没、之、但、勝、を、知、る、其、の、魔、を、振、之、
を、勝、方、斗、之、魔、を、振、之、其、其、魔、を、球、門、の、中、に、立、く、之、を、
球、門、の、拍、子、立、つ、事、も、有、二、三、日、の、球、
之、の、場、訓、立、つ、事、も、有、二、三、日、の、球、
之、の、場、訓、立、つ、事、も、有、二、三、日、の、球、

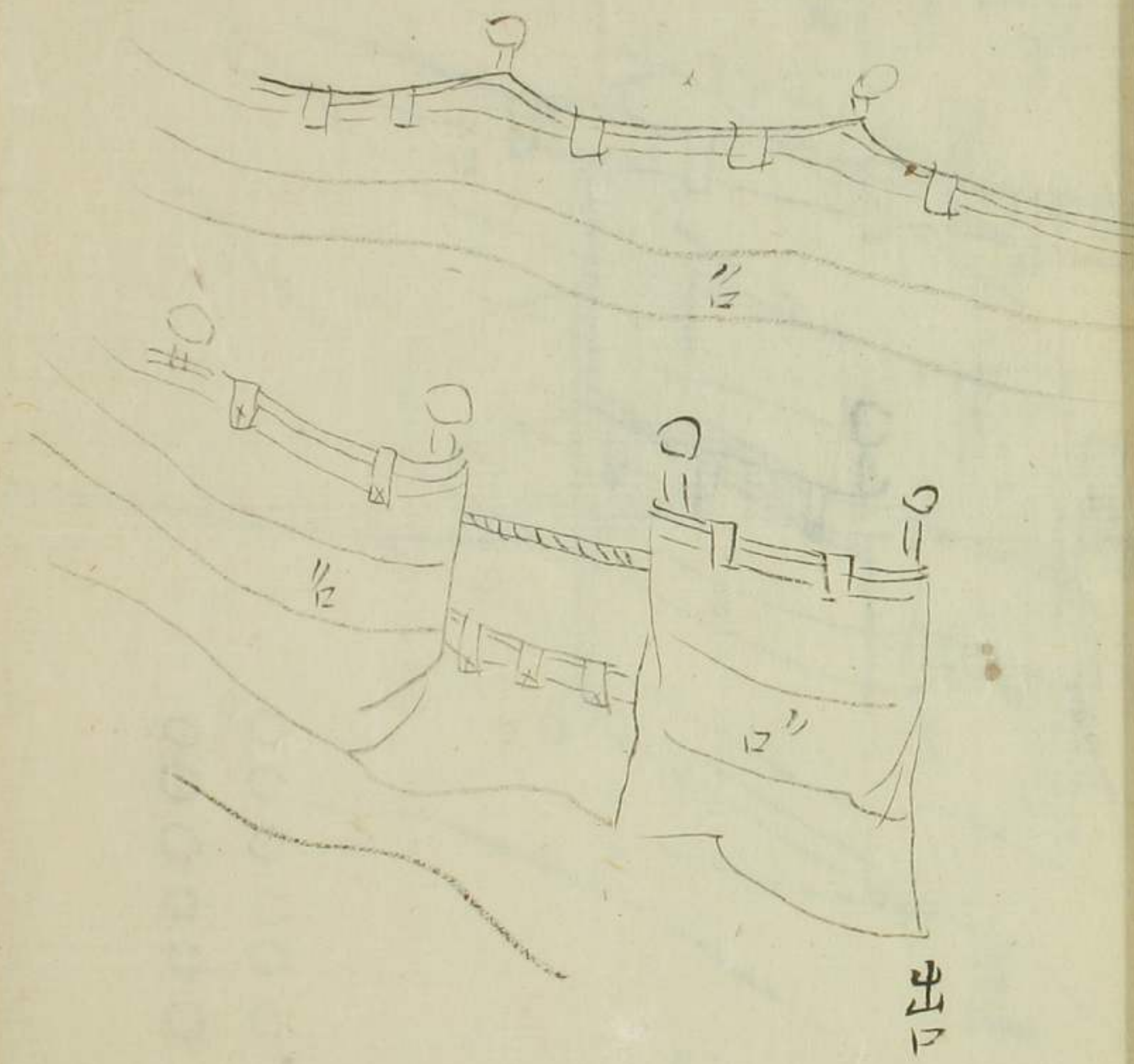
附、球、記、兼、没、之、者、是、換、者、の、と、
二、三、日、を、球、の、没、置、
没、は、江、方、白、方、也、
と、換、者、之、拍、子、
と、換、者、之、拍、子、

一 日記没、勝負と書記に外奉新日月の拍場、
一 球拍の没、球の、
一 馬、
一 馬、

鉄杖

童子ノ戯ニ鉄杖アリ是ハ虫カ頭ヲおて夕帳と
ハナツフス意ト顯昭カ袖中抄曰十節録黃帝取虫を
頭鉄之今鉄杖是之以彼例年始抄鉄杖也○史記五帝紀黃帝
虫ヲ殺マリ尺義曰龍魚汚圖曰黃帝攝政有虫を兄ノ
八十一人逐獸身人語銅鐵類食沙ト見タリシカニ虫を黃帝ノ命ヲ奪
人氏ヲ害ト無道ノ惡人トテ而モ其形異ナル者也鉄杖ハ虫カ頭ト云ヘル事
袖中抄ニ書タレ此其事タカラス古書ニ所見ハナシト思謂鉄杖音
本毛鉄ナリ鞞ノ類之仍テ鞞ノ曰戲鉄トナリ鞞劉向別録曰就足
鞞傳曰黃帝所作是等ノ一ニ思寄テ鉄杖ヲ虫カ者ト云ヘル事
是マタ惡人降伏ノ祝事也

右抄鉄之書福井御家臣長谷川氏ヨリ荒木内藏々
傳來之依御所望与進中候



乱之時
 一文字備

此乃... 亂之時... 一文字備...
 (Faint, mostly illegible vertical text on the right page)

一 鉄門高毛幅共臺間
 二 四目之所細代而作之
 三 腰通取言筋之所取
 四 而作之
 五 西袖幅
 六 西方共知刺因茲
 七 赤徒之方圖
 八 西方共在方出口最
 九 如圖之幕而喰
 十 作之

